

教研式標準学力検査(CRT)の結果

前学年分を範囲とした標記学力検査の結果を報告します。

- ☆ 平均より10.0%以上
- ◇ 平均より5.1~9.9%上
- 平均より2.1~5%上
- = 平均に±2%以内
- ▽ 平均より2.1~5%下
- ▼ 平均より5.1%以下

★ 1年 国語	全国比	
全体	=	
話す・聞く	▽	
書く	=	
読む	○	



★ 1年 数学	全国比	
全体	=	
数と式	▽	
図形	○	
関数	▽	
データ活用	☆	

★ 1年 理科	全国比	
全体	▽	
粒子	=	
生命	▼	
エネルギー	=	
地球	▽	



課題です。

授業に加えて、家庭学習の時間と内容を充実させることで、さらに力が高まります。



★ 2年 社会	全国比	
全体	▼	
世界の様々な地域	▼	
原始から古代の歴史	▼	
日本の中世の歴史	▼	

★ 2年 英語	全国比	
全体	▽	
聞く	▼	
話す	=	
読む	▼	
書く	=	

主体的に学習に取り組む態度、資質・能力ともに平均を下回っていますが、上昇傾向にはあります。

まずはメディア使用の約束を守る、忘れ物をしない、課題を提出する、授業に集中するという基本姿勢の確立が必要です。

★ 3年 社会	全国比	
全体	▼	
日本の地域的特色	○	
日本の諸地域	▽	
近世の日本	▼	
近代の日本	▼	



学習に取り組む態度の粘り強さ、自己調整、興味関心、自信の4項目すべてにおいて☆でした。

資質・能力では情報活用や言語能力が高い一方、課題解決や思考力が

思考力以外の情報活用、言語、対話性、課題解決の資質・能力は平均を上回っています。課題は学習態度の主体性・自主性です。学習の主体者は「自分自身」です！

平和祈念集会の講話 8/9(火)  
抜粋

平和祈念集会の目的は？ 1つは「原爆で亡くなった方々へ安らかに眠りくださいという哀悼の意を表すため」、もう1つは「戦争のない平和な世界を私たちがつくります」という決意を誓うため。

発表や朗読、平和宣言の内容を日常生活の中で、いかに言葉や行動で表し、身近なところから平和な世界をつくっていかうとすることが重要。

伝えたいミッション（指令）を2つ。1つめは「相手を理解しようとする人になれ」。戦争をしている国同士は、両方の国とも、自分の国が正しいと思っている。自分の国が正しいと言い張り、話し合いよりも武器を選ぶことで双方とも命を落としてしまうのが戦争。

これを私たちの生活で例えるなら、自分も相手も、それぞれが正しいと思って言い合いになり、しまいには殴り合いのケンカになってしまうことと同じ。そうならないためには、相手の言い分を聴くとか、自分の考えを違う言い方で伝えてみる、誰かに間に入ってもらう、一旦話をやめて時間をおくなど、折り合いを付けようとするのが解決への道筋。個人でも団体でも、地域や国同士でも、争いの構造は同じ。

ミッションの2つめは「戦争の愚かさを伝える人になれ」。戦争の愚かさとは、戦争で命を奪い合っているのが、お互いに会ったこともない若者同士であるということ。

ちびまる子ちゃんに登場するヒデじいが戦争に行った回想シーン。1人のアメリカ兵から「動くな」と銃を向けられ、「殺される」と死を覚悟した直後、アメリカ兵が地雷を踏んで倒れてしまう場面があった。

ヒデじい倒れたアメリカ兵に近づいてみると、彼はすでに死んでいた。血だらけになった手の中に1枚の写真を握りしめたまま。恋人か妻かもしれない女性が写った写真。

ヒデじいにも愛する妻と娘がいる、アメリカ兵にも愛する恋人あるいは妻がいる。ヒデじいとアメリカ兵は初めて会ったので、当然相手に対する憎しみや殺意は全くない。

しかし、アメリカ兵は死んでしまった。戦争だから。戦争とは何と愚かなことか。それはマンガの中の話だけでは済まされない。ウクライナとロシアの戦争でも知らない若者同士が戦い、亡くなっていく。遠い国の話ではない。ロシアは海を挟んで日本の隣りに位置している。

戦争のない平和な世界を「創って」いく当事者は、私たち一人一人であることを決して忘れないでほしい。

県中総体の結果

柔道66kg級において平野君が見事3位に入賞しました。陸上31名も大健闘し入賞こそなかったものの自己ベストやチームベストを更新する選手が多くいました。

競技面と生活面の両面で、今後へ繋がる貴重な経験とすることができました。